

フィリピン台風被害

## 調整員2人を派遣

AMDA

フィリピンを襲った

台風26号による災害を受け、国際医療ボランティアAMD A（岡山市北区伊福町）は22日、現地の被災状況と医療ニーズを調べる調整員として、同国出身で岡山倉敷フィリピンサークル（OKPC）の大山マージョリー代表（45）＝井原市＝と、赤磐市から出向中の理学療法士三宅孝士さん（55）＝岡山市＝の2人を派遣した。

現地に20日到着の調整員（看護師女性）1人に続く第2陣で、JR岡山駅から関西空港を経て22日夕、現地入りした。30日帰国の予定。2人は出発前、AMD A本部で「食料の調達や現地医師のサポートに取り組む」と話した。

AMD Aが現地報道から得た情報では、フィリピンでの死者は40

人以上に達し、10万人超が避難生活強いられ、電気や水道の供給に影響が出ているという。

（難波孝光）



フィリピンで行う支援活動について語る三宅さん（左）と大山さん